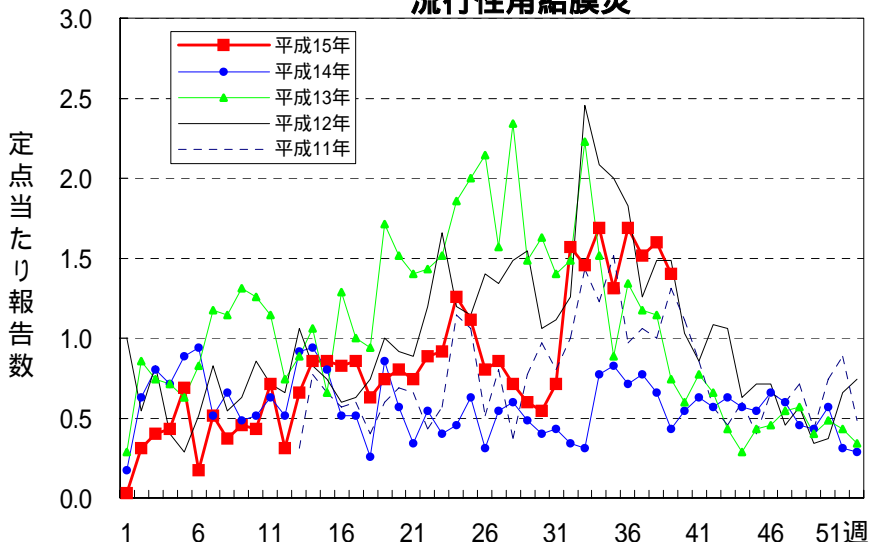


流行状況

流行性角結膜炎

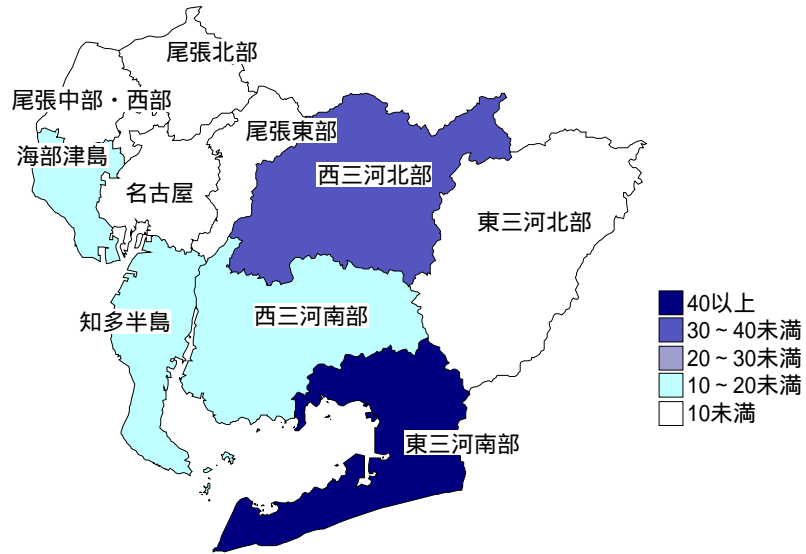


疾患名	前週	今週	備考
<u>流行性角結膜炎</u>	1.6	1.4	眼結膜・角膜の炎症を主症状とするアデノウイルス感染症 (重症例では視力障害を残す)
<u>手足口病</u>	1.1	0.6	夏かぜウイルスの飛沫、経口、水疱からの感染。口の中、手や足の先の水疱性発疹
<u>ヘルパンギーナ</u>	0.6	0.4	夏かぜの一つ。咽頭に赤いリングの小水疱と浅い潰瘍
<u>咽頭結膜熱</u>	0.12	0.10	発熱・咽頭炎・結膜炎を主症状とする急性のアデノウイルス感染症
<u>マイコプラズマ肺炎</u>	0.85	0.61	マイコプラズマとよばれる病原体による空咳と胸痛が特徴的な肺炎 6 定点からコメントでの患者発生報告あり

定点当たり報告数	定点当たり報告数	定点当たり報告数
減少	横ばい	増加

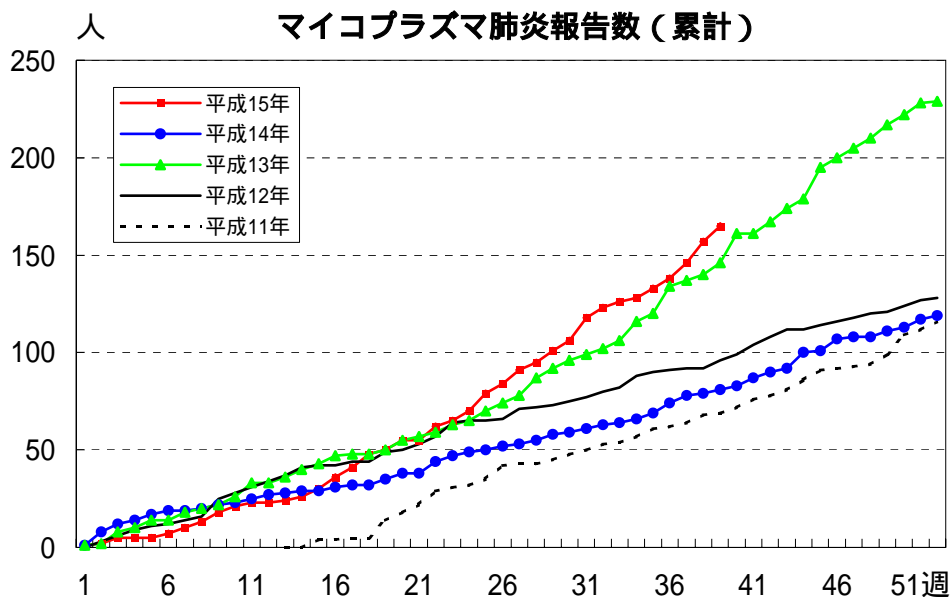
感染症についての説明及びグラフ総覧については、
愛知県衛生研究所のホームページをご覧ください。
(<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/>)

マイコプラズマ肺炎の医療圏別報告数(名古屋市含む)



医療圏別基幹定点数と報告数（平成15年第1週から第39週までの累計）

医療圏名	圏内保健所等	基幹 定点数	報告数
名古屋市	名古屋市	1	4
尾張東部	瀬戸保健所	1	0
海部津島	津島保健所	1	17
尾張中部・西部	師勝・一宮保健所	1	0
尾張北部	春日井・江南保健所	1	1
知多半島	半田・知多保健所	1	13
西三河南部	岡崎市・衣浦東部・西尾保健所	3	19
西三河北部	豊田市・加茂保健所	1	39
東三河南部	豊橋市・豊川保健所	2	76
東三河北部	新城保健所	1	0
計		13	169



定点の先生方からのコメント

尾張西部地区

パラインフルエンザ 2歳女

病原性大腸菌O1 7歳男、9歳女、36歳女

カンピロバクター 17歳女

【尾西市 城後小児科】

5歳男 感染性腸炎 エルシニア*1

5歳女 感染性腸炎 カンピロバクター

【一宮市 あさのこどもクリニック】

*1 エルシニア：食中毒原因菌の1つ

流行性角結膜炎、子供から母親（家族）への伝染傾向がみられます。

【一宮市 ふなはし眼科】

8ヵ月女 百日咳 山口株抗体上昇

マイコプラズマ感染症 12歳男

【一宮市 後藤小児科医院】

A群溶連菌感染症、軽症の感染性胃腸炎が少し増加傾向です。

【江南市 みやぐちこどもクリニック】

百日咳 4ヵ月男

病原大腸菌O166 VT1、VT2とも陰性 3歳男

カンピロバクター腸炎 3例（いずれも学童）

【江南市 河野小児科】

今週はおちついていきます。

9/22から喘息発作の子供達が目立ちます。

【岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック】

1歳女 マイコプラズマ感染症

3歳女、60歳男 マイコプラズマ肺炎

【春日町 丹羽医院】

43歳女 クラミジア感染症

【師勝町 田中クリニック】

尾張東部地区

病原大腸菌O18 7歳男、O153 5歳男

カンピロバクター腸炎 4歳男

マイコプラズマ肺炎 10歳男

マイコプラズマ感染による多型滲出性紅斑*2 6歳男

ヘルペス歯肉口内炎 1歳男、2歳女

【瀬戸市 津田こどもクリニック】

*2 多型滲出性紅斑：臨床的に紅斑を主症状とする疾患の1つ

今週は、ヘルパンギーナが何例か見られました。

流行性耳下腺炎減少傾向

アデノウイルス感染症数例あり（1例2歳女児は咽頭結膜熱）。

マイコプラズマ肺炎が相変わらず多くみられております。

【尾張旭市 医療法人誠和会 佐伯小児科医院】

S S S S^{*3} 2歳例ありました。
他めだったものありません。

【春日井市 朝宮こどもクリニック】

*3 S S S S : ブドウ球菌性熱傷様皮膚症候群
伝染性膿痂疹からM R S A^{*4}を検出した例が3例ありました。

【春日井市 竹内医院】

*4 M R S A : メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症
手足口病再び流行
腸炎多し(ウイルスやサルモネラ)

【小牧市 小牧市民病院】

喘息発作の患者が多い1週間でした。

【東海市 小児科ハヤカワ医院】

帯状疱疹 5歳男

【東海市 東海市民病院】

サルモネラO4 3歳女

【大府市 まえはらこどもクリニック】

西三河地区

1歳男 カンピロバクター腸炎

0歳男 病原大腸菌 025

6歳男 病原大腸菌 0168

4歳女 病原大腸菌 018、サルモネラ 09

【豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック】

2歳女 サルモネラ腸炎 09

8ヵ月女 サルモネラ腸炎 07

【豊田市 すくすくこどもクリニック】

6ヵ月男 病原性大腸菌 01

4歳女 病原性大腸菌 0127 a

10歳女 サルモネラ菌O4群

8歳女 マイコプラズマ肺炎

【岡崎市 花田こどもクリニック】

14歳女 サルモネラO9

【岡崎市 にいのみ小児科】

2ヵ月男 病原性大腸菌O125

7歳女 病原大腸菌O152

3歳男 マイコプラズマ肺炎

【岡崎市 医療法人川島小児科水野医院】

アデノ(+)の扁桃炎3例

【刈谷市 田和小児科医院】

10歳男 サルモネラO4陽性、プレジオモナス^{*4}陽性

14歳男 帯状疱疹

【刈谷市 まついこどもクリニック】

*4 プレジオモナス : 食中毒原因菌の1つ

1歳男 アデノウイルス扁桃炎 チェックA d (+)
2歳男 病原性大腸菌O167 VT (-)
4歳男 病原性大腸菌O1 VT (-)

【幸田町 とみた小児科】

感染性胃腸炎、溶連菌感染症が増え始めました。

【三好町 三好町民病院】

東三河地区

5歳男 サルモネラO9

【豊橋市 医療法人こどもの国大谷小児科】

8歳男 マイコプラズマ肺炎

【豊橋市 野村小児科】

1～3類感染症の発生状況 - 愛知県(名古屋市を除く。) -

細菌性赤痢

番号	報告 保健所	年齢	性別	発病 月日	初診 月日	診定 月日	菌型等	備考
1	豊川	29	男	9/17	9/18	9/20		推定感染地域 インドネシア

腸管出血性大腸菌感染症

1	瀬戸	17	女	9/18	9/20	9/25	O157 VT1(+) VT2(+)	
---	----	----	---	------	------	------	--------------------------	--

コレラ(40週報告分)

*	半田	38	女	9/28	9/28	9/29	疑似症	推定感染地域 ベトナム
---	----	----	---	------	------	------	-----	----------------

全数把握の4類感染症の発生状況 - 愛知県(名古屋市を除く。) -

発生報告無し

愛知県衛生研究所企画情報部（文責 磯村）

彼岸花が真赤な彩りで庭先を飾っている新しい住宅。多分、去年までは畦道に咲いていたのが今年は庭に顔を出したのでしょうか。捨てずに来年も咲かせて欲しいです。この季節には木犀の香も流れてきますから。いつも貴重な情報を有難うございます。9月前半/後半のまとめをお送りします。

- 1) 名古屋市内：名鉄病院福田先生からはヘルパンギ - ナと手足口病が散発的だがまだ目立ち、ウイルス性胃腸炎増加、これらの重症例やマイコプラズマ肺炎の入院が多く髄膜炎は減少、第一日赤松山先生からは感染症激減、水痘と溶連菌感染症が散発中で無菌性髄膜炎 3 例入院、城北病院渡辺先生からは外来がめっきり減少、特別な傾向なし、三菱病院入山先生からは感染性腸炎 2 例（カンピロバクタ - 、病原性大腸菌 O6、O166）、マイコプラズマを含む肺炎 11 名、溶連菌感染症の入院 1 例、無菌性髄膜炎 1 例、大同病院水野先生からは特に目立つものはなく、流行という程ではないが E B ウイルス感染症が今年は多く、感染症ではないが喘息が非常に多いとのお手紙をいただきました。
- 2) 尾張地区：犬山市武内先生からは感染症が極めて少ないなか、感染性胃腸炎と水痘が散発、ムンプス 1 例あり、江南市昭和病院小児科からは A 群溶連菌感染症と喘息が目立ちサルモネラ腸炎 2 名、マイコプラズマ肺炎、咽頭炎による入院目立つ、常滑市民病院上田先生からは手足口病、細菌性腸炎（サルモネラ、カンピロバクタ - ）、溶連菌感染症、伝染性紅斑、マイコプラズマ肺炎、ムンプス髄膜炎の入院が目立ったとのお手紙でした。
- 3) 三河地区：トヨタ病院木戸先生からは感染症全体が少ないがウイルス性髄膜炎、マイコプラズマ肺炎の入院あり、刈谷市田和先生からはムンプスがたまにありアデノウイルス陽性の扁桃炎 3 例（2 例は同胞例）、感染性胃腸炎（カンピロ陽性）が時々あり、豊橋市宮澤先生からはサルモネラ、カンピロバクタ - 腸炎が目立つとのお手紙でした。有難うございました。

2003 年 8 月 29 日 (78 巻 35 号)

コレラ：リベリアの現状。03 年年頭 - 8 月 19 日、WHO は 3,889 例報告。6 月初旬以降、2,464 例が登録された。軽症例は含まれておらず過小報告と思われる。死亡例の報告なし。国境なき医師団の報告であるが国内難民の大量発生、首都モンロビアの人口増、安全な水供給不足などから今後の発生数増多が懸念される。

ポリオ：アンゴラ、コンゴ共和国。02 年 1 月 - 03 年 6 月。96 年からポリオ根絶強化が実施。国土が広いこと、内戦、都市部の人口過多、ポリオの流行歴などがこの 2 カ国の特徴である。本報は最近の状況のまとめである。定期接種：生後 12 カ月までの弱毒生ワクチン接種 3 回完了者はアンゴラでは 00 年 33%、01 年 44%、02 年 42% でコンゴでは 00 年 42%、01 年 33%、02 年 45% であった（共に未確認情報）。追加接種：ポリオ発生地区を中心に戸別訪問による接種。5 歳以下小児を対象とした年 1 回以上の住民追加接種が実施された。03 年にはアンゴラで 7 月・8 月の 2 回、450 万人接種。コンゴでは 02 年 6、7、8 月の 3 回 1,250 万人接種。急性弛緩性麻痺（AFP）：02 年の AFP 例数はアンゴラ 186、コンゴが 1,239、うちポリオ確定数がアンゴラ 13、コンゴは 59 例、03 年 1 - 6 月では AFP 例数がアンゴラ 43、コンゴ 414、ポリオ確定数はアンゴラ 0、コンゴ 1 例であった。分離ウイルスは 1 型野生株で周辺諸国の分離株と一致（99 年にはアンゴラで 1,100 例以上のポリオが発生し、ポリオ 3 型であった）。

インフルエンザ：03 年 7 月 - 8 月。アルゼンチン、ブラジル、チリ：A 型散発。香港：A（H3N2）型中規模発生。ニュージーランド：広範に発生中。A（H3N2）。ウルグアイ：散発中。7 割が A（H3）、3 割が A（H1）。

SARS：国別発生数。02 年 11 月 1 日 - 03 年 8 月 7 日（国別の一覧表あり）。世界の患者総数は 8,422 例、各国の患者届出数は総数では中国が最多。以下香港、台湾、カナダ、シンガポールと続き、患者の年齢の中央値は 40 歳代（中国は未発表）、死亡は 916 例、輸入例の数、医療従事者の発病数（0 - 40%、国による差あり）、初発例の発病日、最終例の発病日など詳細な表。

03 年 8 月 22 - 28 日届出。コレラ：コンゴ、マリ、香港。

2003年9月5日(78巻36号)

各種感染症情報 コレラ。リベリアの状況：WHO専門家が首都モンロビアで調査。発生数や死亡数が正確に把握出来ていない。患者は急増中、多数の人々が自宅に帰るか国内難民として難民収容キャンプに来るようになってコレラが市の中心部から周辺部に広がりつつある。安全な水の供給が最大の急務でWHO、ユニセフを中心に井戸水の消毒作戦を開始。NGOとWHOの調査では小児の40%が栄養失調で大きな課題となっている。ジフテリア。アフガニスタン。03年9月9日時点で50例(死亡3例)報告。南部カンダハールの国内難民収容キャンプで発生、首都カブルの衛生研究所で菌確定。キャンプ住民全員を対象としてワクチンの緊急接種開始。WHO、国連高等弁務官、ユニセフ、国境なき医師団、国際赤十字などが対策立案、調査、予防実施に参加。リフトバレ熱。エジプト。03年8月28日までに45例(死亡17例)のリフトバレ熱がカイロ北方の農村部カール・アルシェイクで発生。全員農夫。カイロの研究所で確定。例数は増加中で疫学的監視を当局は継続。

リンパ系フィラリア症。根絶目的で使用された多剤併用療法の副作用調査：WHO推奨の多剤投与(ジエチルカルバマメゾン+アルベンダゾールまたはイベルメクチン)につき国際組織で副作用調査が実施された。めまい、頭痛、悪心などが5%-10%にみられたが日常生活にはほとんど支障がなく、今後継続すべしとの結論であった。

ポリオ。世界の発生状況：03年8月27日届出。03年8月の急性弛緩性麻痺例数とポリオ野生株陽性者数。パキスタン53例、インド112例、ナイジェリア107例、ナンビア4例、アフガニスタン2例が主たる常在国。

第 37 週(15 年 9 月 8 日～9 月 14 日)の 4 類感染症 (全国)

小児科定点報告疾患

咽頭結膜熱の定点当たり報告数は第 29 週をピークとし、その後減少が続いているものの、前週、今週は微減にとどまっている。第 16 週以降、過去 10 年間の当該週と比較して最高の値であり、都道府県別では鳥取県(1.4)、滋賀県(1.2)、大分県(1.2)が多い。A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は増加し、過去 5 年間の同時期と比較してやや多く、都道府県別では山形県(1.5)、鳥取県(1.4)、大分県(1.2)が多い。感染性胃腸炎の定点当たり報告数は微増し、過去 5 年間の同時期と比較してやや多く、都道府県別では福井県(5.4)、富山県(4.4)、宮崎県(4.4)が多い。手足口病の定点当たり報告数は第 29 週をピークとし、その後 5 週続けて減少した後、2 週続けて微増したが、今週は減少した。第 32 週以降、過去 10 年間の当該週と比較して最も多く、都道府県別では岩手県(6.7)、秋田県(5.1)、長野県(4.8)が多い。ヘルパンギーナの定点当たり報告数は第 29 週をピークとし、その後は減少し続けているが、過去 5 年間の同時期と比較してやや多く、都道府県別では宮崎県(3.9)、福井県(3.5)、愛媛県(3.5)が多い。

基幹定点報告疾患

無菌性髄膜炎の定点当たり報告数は微減して 0.11 で、都道府県別では鳥取県(1.8)、福井県(0.8)が多い。マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は減少して 0.23 で、都道府県別では山形県(1.4)、岡山県(1.0)、大阪府(0.9)が多い。

(Infectious Diseases Weekly Report より抜粋

厚生労働省感染症研究所感染症情報センター - 感染症情報室提供)

詳細は感染症情報センター - のホームページ(<http://idsc.nih.go.jp/kanja/index-j.html>) の感染症発生動向調査週報をご覧ください。

愛知県感染症情報

2003年第1週～第39週(平成14年12月30日～平成15年9月28日)(累計)

愛知県衛生研究所

	定点数					インフルエンザ	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発疹	百日咳	風疹	ヘルパンギーナ	麻疹	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	急性脳炎 (日本脳炎を除く)	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎*	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)	成人麻疹
	インフルエンザ	小児科	眼科	STD	基幹																					
愛知県 (名古屋市を含む)	191	182	35	51	13	47,887	1,414	7,169	27,798	11,666	10,512	1,611	5,242	63	58	6,390	164	4,472	31	1,135	1	6	10	169	0	4
総数 (名古屋市は除く)	121	112	24	37	12	38,582	1,054	5,158	19,068	9,358	8,969	1,298	4,205	50	37	4,635	130	3,569	26	818	1	6	9	165	0	4
名古屋	名古屋	70	70	11	14	1	9,305	360	2,011	8,730	2,308	1,543	313	1,037	13	21	1,755	34	903	5	317			1	4	
尾張東部	瀬戸	9	9	2	3	1	2,755	75	833	1,192	430	192	37	240	5	1	491	10	416	1	37					
海部津島	津島	7	7	2	2	1	1,341	47	90	1,393	510	883	72	210	2		237	2	158	2	27			17		
尾張中部	師勝	4	4	1	1		1,378	13	127	1,144	165	182	21	102		5	393	1	149		19					
尾張西部	一宮	16	12	3	4	1	2,712	43	377	2,390	788	829	133	471	7	1	339	3	239	1	120			1		
尾張北部	春日井	9	9	2	3	1	4,291	114	408	1,246	632	751	196	347	3	4	461	7	319	1	69	1	2	2	1	1
	江南	6	6	1	2		1,522	62	318	1,766	558	743	94	316	3	1	208		109		45					
知多半島	半田	6	6	1	2	1	1,915	19	182	716	220	147	51	227		1	155	1	211		15		1	13		2
	知多	7	7	2	2		2,364	113	451	1,278	627	403	80	302	1	1	341	28	131	2	30					
西三河南部	岡崎市	11	7	2	2	1	4,159	32	321	243	928	583	155	507	10		351	1	547	3	79					
	衣浦東部	11	11	2	4	1	5,878	75	415	1,202	1,135	910	115	393	4	1	374	14	640		97			2	12	
	西尾	5	5	1	2	1	1,190	15	233	662	438	317	94	169	1	2	140	10	158		50			2	7	1
西三河北部	豊田市	8	8	2	3	1	2,409	87	259	1,265	828	463	70	273	11	15	357	12	274	7	99			2	39	
	加茂	3	3		1		489	16	203	423	148	161	12	51		3	78		47							
東三河南部	豊橋市	8	8	2	4	1	3,088	228	599	2,547	847	1,160	94	334	1		356	25	40	7	75		3	37		
	豊川	9	8	1	2	1	2,839	115	340	1,601	1,049	1,196	74	242	2	2	352	13	106	2	56			39		
東三河北部	新城	2	2			1	252		2		55	49		21			2	3	25							

* 衣浦東部保健所より37週分の追加報告あり

愛知県感染症情報

2003年第1週～第39週(平成14年12月30日～平成15年9月28日)(累計)

愛知県衛生研究所

年齢階層 (名古屋市を除く)	インフルエンザ	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発疹	百日咳	風疹	ヘルパンギーナ	麻疹	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	急性脳炎 (日本脳炎を除く)	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎*	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)	成人麻疹	
計	38,582	1,054	5,158	19,068	9,358	8,969	1,298	4,205	50	37	4,635	130	3,569	26	818	1	6	9	165	0	4	
～6ヶ月	518	6	11	224	244	73	7	360	8		69	2	2		5							
～12ヶ月	1,096	37	26	1,223	568	437	47	2,534	12	2	434	25	21		13							
0歳																	2		3			
1歳	3,227	163	127	2,903	1,675	1,623	68	1,212	10	5	1,150	32	170		28				14			
2歳	3,245	168	295	2,177	1,583	1,577	117	78	3	2	888	9	284	1	22				16			
3歳	3,321	162	641	2,126	1,741	1,720	146	8	3	1	823	6	543	2	28				18			
4歳	3,516	155	971	1,872	1,640	1,493	192	1	4	3	548	8	701		20				13			
5歳	2,262	134	989	1,468	1,000	976	204	2	2	5	376	5	688	1	29							
6歳	1,825	79	737	1,082	414	458	177	4			149	7	422		7							
7歳	1,466	48	428	847	168	205	101	1	1	4	71	5	241		8							
8歳	1,304	38	291	685	112	136	97	3	2	3	31	3	169	1	8							
9歳	1,336	18	169	523	61	65	44			1	35	2	95		7							
5歳～9歳																		2	39			
10歳～14歳	4,860	21	230	1,262	94	92	68	2	2	3	27	17	150	1	32				25			
15歳～19歳	1,574	3	20	353	9	8	1				7	3	12		30			1	4			
20歳～		22	223	2,323	49	106	29		3	8	27	6	71			1	4					
20歳～29歳	2,768													10	132			3	10			2
30歳～39歳	3,054													1	170			1	9			1
40歳～49歳	1,182													2	79			2	5			1
50歳～59歳	892													3	98				2			
60歳～69歳	597													1	57				2			
70歳～														3	45							
70歳～79歳	352																		4			
80歳以上	187																		1			